

救 急 法 講 習 会 報 告 書

【内 容】 山中における応急処置（自分たちの持っている装備で何が出来る！）

【日 時】 平成26年6月14日 10時00分から17時00分

15日 9時30分から16時30分

【場 所】 大阪科学技術センター

【講 師】 恵 秀彦氏（いさお ひでひこ）日山協遭難対策常任委員

【主 催】 大阪府山岳連盟、大阪勤労者山岳連盟

【参加人数】 39人

【実施内容】

- ・ 山岳特有の事故、病気の実情をデータから分析した原因、予防について。
特にこの時期多く発生する熱中症の処置、予防については詳しく、具体的な説明があった。
- ・ ファーストエイドについて
発生する事態にどう対応するのか、安全確保から始まり、状況評価、救助要請から初期評価等一連の救急の流れについて講義が行われた。その後の実習では、目的、手順、注意点、何処がポイントか時間をかけて説明がなされた。
- ・ 三角巾、包帯、テーピングテープ、サムスプリントの使用方法
これらは、登山の装備では緊急対策用品として常備しているもので、その使用方法について基本的なことから実状を想定した実習を行った。
- ・ 最終実習
3班に分かれて、それぞれ異なる状況の要救助者の救急実習を行った。与えられた、装備だけでどのような処置が出来るのかが条件であり、講習だけでは対応しきれない怪我也あったが、二日間の講習の集大成である。
冷静な状況判断、原理原則、臨機応変な対応、正確かつ早急なる判断を求められる実践的課題であり、班全体のチームワークも問われた。
最後に先生による評価、アドバイス、受講生からの質疑応答が多数あった。

【所 感】 山中でのケガや病気、何時何処でどんな状況で遭遇するか分からないので、常に対応する心構えと知識経験が必要と強く感じた。手をこまねいて、結局救助を要請するだけではなく、出来る限りの処置をすることが登山者の心得と感じた。
応急処置のスキルは定期的に繰り返し行う必要があるので、いざというときのためにも今回のような講習会、所属山岳会や個人での練習などで常に実施していくべきことと思われる。

遭難対策委員会としてもワースト記録を更新している山岳遭難に対しての重要な対応策として救急法を今後もより多くの登山者に認知してもらえよう努力していきたい。

最後になりましたが、この分野では第一人者である恵先生には大阪まで来ていただき、わかりやすく丁寧な講習をしていただきました。心から感謝申し上げます。

大阪府山岳連盟 遭難対策委員会



講習状況



実習状況